

2023年度の大手前大学・大学院

研究科長 鳥越 皓之

私事から始めて恐縮だが、私は8年間というとても長い期間、研究科長を勤めてきた。この23年度でもって退職をする。ありふれた言い方だが、とても多くの人にお世話になったことを身にしみて感じている。お世話になったいろんな人たちの顔を思い出す。

また、関係者の協力のもとにかなりの数の院生を修了させ、かれらはそれぞれの場で活躍をしている。最近では中国からの留学生が増えたが、博士後期課程を終えた留学生は、全員が中国の大学に専任講師や准教授として就職をした。

この8年間の大きな変動をしては、入試の受験科目の英語を選択科目に変えたので、必ずしも英語を取らなくても受験できるようになった。それは外国語を英語ではなくて、日本語としている留学生に有利に働いた。

コロナが膝をつき合わせての親密な・学習と研究の機会を奪ったが、この23年頃からはかなり旧に復したと言えよう。学内の「修士学位論文中間発表会」や「大手前比較文化学会」などで、その充実した成果をみることができるようになってきた。

23年3月の博士前期(修士)課程修了者5名。博士号取得者はいなかった。また4月に博士前期(修士)課程に9名、博士後期課程に2名が入学した。

* * *

7月8日に「修士学位論文中間報告会」を行った。博士前期課程の以下の6名の報告があった。

題目：「日中大学生における対人関係ストレスについての調査研究」

発表者 博士前期課程 趙 婷婷 (研究指導：中島 由佳教授)

題目：中国語「了 le」と日本語のテンス・アスペクトの対照研究
ーテイルを中心にー

発表者 博士前期課程 白 珩 (研究指導：鈴木 基伸准教授)

題目：「非公式」の聖地はいかに維持されているのか

—ファン主催イベントにおける互酬的活動の地域イメージに与える影響—

発表者 博士前期課程 馬 慧明（研究指導：谷村 要教授）

題目：中国現代文学における食の表象—汪曾祺作品の「魚」を中心に—

発表者 博士前期課程 武 麗萌（研究指導：于 亜教授）

題目：中国における食文化の海外進出に関する研究—在日四川料理を事例に

発表者 博士前期課程 頼 聰（研究指導：于 亜教授）

題目：「大政奉還前後の政治史」

発表者 博士前期課程 林 東旭（研究指導：尾崎 耕司教授）

これらの発表に対し、教員たちから活発な質疑があり、発表者たちは懸命に答えていた。なお、とくに柏木隆雄客員教授に全体の講評をいただいた。

11月6日に「大手前大学比較文化学会」が行われ、ふたりの博士後期課程の学生の報告があり、また石畑先生に研究発表をしていただいた。

発表者：博士後期課程 木田 則子

題目：宮崎玉緒関、小山清六編『俳諧切字鑑』について（指導教授：辻村尚子准教授）

発表者：博士後期課程 廣澤 美花

題目：コロナ禍で取り組まれている新しいコミュニケーション

——ブライダル業界を中心にして——（指導教授：鳥越皓之教授）

博士後期課程の学生らしい報告であった。その後以下の研究発表があった。

発表者：講師 石畑 匡基

題目：豊臣奉行発給文書の基礎的研究—大谷吉継発給文書を中心として—

それぞれ学会の内容にふさわしく、また刺激的なものであった。